

## 2014(H26)年 6 月 25 日 6 月議会一般質問

○私は、自由民主党福岡市議団を代表いたしまして、学習塾と学校教育について、大相撲九州場所について、そして森林資源活用サイクルの確立について、3問質問いたします。

まず、学習塾と学校教育についてお尋ねいたします。

私が小学校3年生のときの恩師は、私たちが最初の教え子であって、若くて厳しい先生でした。現在は80に届くほどの年齢ですが、いまだにかくしゃくとしておられ、今でもいろんなことを教わっています。その恩師を訪問すると、よく子どものころの話に花が咲きます。教室で勉強したことではなく、恩師と遊んだこと、学校の宿直室に泊まりに行ったことなどがよく話題になります。あのころはよかったなあと、会うたびに恩師の口からため息まじりに出ます。36年間の教師生活を振り返りながら、近年は教師も子どもたちもお互い忙しくなっていて、先生と子どもたちとの触れ合いが少なくなっていることを危惧しておられました。これは学校現場だけではなく、社会全体が大きく変わっていくことからのひずみではないかと。教師は報告書づくりや対外的なものに時間を割かれ、児童と接する時間も減少している。子どもたちは学校から帰ると、習い事や塾、スポーツクラブと忙しく頑張っ

いるが、家族との触れ合いや友達との遊びにどれだけ時間がとれているのかと心配されています。そこで、学習塾についてですが、学習塾の数は減少するどころか、逆に増加しているように感じられます。市内のメイン通りには至るところに塾の看板が目につきます。ことし2月のニュースでは、塾を経営する企業で株式を公開し上場している約20社のうち、半数近くが過去最高益を更新する成長を見せたと伝えていました。また、3月2日の新聞紙上では、家計に占める教育費の負担が高まったことから、生活費を節約して教育費を捻出する傾向が強まり、教育費負担は一段と厳しさを増したとのことでした。そこで、まず、子どもたちがどれくらいの割合で学習塾に通っているのか、小学校、中学校別にお尋ねします。

少し古い資料ですが、平成21年度の文部科学省の統計調査では、世帯年収が高いほど学力テストの正答率が高い傾向にあると報告がなされています。このことから、学習塾や家庭教師での学校外での学習効果があると思われます。中学校3年生の子どもたちのほとんどが中体連、中文連が終わると、高校受験を意識して、塾に通い始めるとのことでした。そこで、学習塾に通っている理由について、教育委員会として把握されているか、把握しているならば、その状況をお尋ねいたします。

次に、大相撲九州場所についてお尋ねします。

相撲の歴史は非常に古く、古墳時代の埴輪や須恵器にもその様子が描写されており、古事記や日本書記にもその記述があるそうです。相撲は古くは神事でした。奉納相撲として日本各地の祭りとともに、延々と現代に引き継がれています。私の地元、早良区においても、戦後 30 年代までは各神社に土俵があり、地元の青年たちが力を競い合ったという話を古老が懐かしげに語っていただきました。当時は庶民の娯楽だった相撲が、昭和 32 年 11 月に大相撲九州場所として福岡で初めて開催されたときは、福岡だけではなく、九州一円の相撲ファンは沸き立ったのではないかと想像されます。昭和 32 年から約 60 年間、福岡スポーツセンター、九電記念体育館、そして、国際センターと会場は変わりましたが、福岡の師走前の風物詩としてしっかりと地元に着いています。国技である大相撲が毎年開催されることは伝統文化を継承することであり、取り組みや稽古を実際に見ることや力士と触れ合うことは青少年の健全育成にも大いに役立ち、また日本のみならず、外国からも観光客を誘致する上での重要な資源と考えております。この福岡で大相撲が開催されることはとても喜ばしく、市民の誇りでもあると思っておりますが、本市としては、どのように捉えておられるのか、御所見をお尋ねします。

次に、森林資源活用サイクルの確立についてお尋ねします。

ことしの4月29日、脊振山系では初めての山開きのイベントが行われました。主催は脊振の自然を愛する会で、糸島市の十坊山から脊振山頂までの60キロメートルにわたって約270本の道しるべを設置するなど、登山道の整備や清掃などの活動を行っているボランティアグループです。多くの市民に身近な脊振山系の自然にもっと足を運んでいただきたいとの思いで開催され、予定人数を超す参加者がありました。これからも、より多くの市民の皆様に脊振山系に足を運んでいただき、四季折々の自然を楽しみ親しんでいただきたいと思っています。脊振山系の山林は、昔から福岡のまちに向けて建築資材や木工材料として、また、まきや木炭等エネルギー源として供給してきました。こうした木材を安定供給し維持していくために、切る、植える、育てる、切るといった森林整備が40年から50年のサイクルで、産業として何百年と先祖代々引き継がれてきました。その脊振山系の山林は、戦後の復興による需要拡大により大量伐採され、その後、植林が行われたものの下草刈り等の育成時期のころから、日本は経済の高度成長期に入り、資源を海外に依存するようになりました。その結果、木材価格が暴落し、産業構造も大きく変化しました。林業に対して生産意欲をなくした森林所有者は、山に入ることもなく、山は次第に荒れて

いきました。ことし、福岡市で開催されましたシンポジウムにおいて、林野庁の本郷森林整備部長は、「日本の森には年をとった木がどんどんふえ、人間で言えば少子・高齢化の状態になっている。伐採しないで放置すると、森林の高齢化で土砂崩れが起き、保水力や二酸化炭素吸収力など多目的機能が低下する。木が使われないことは、私たちの生活に悪影響をもたらす」と現在の日本の森林の状態を危惧しておられました。福岡市内の森林におきましても同じようなことが言えると思います。福岡市としても、森林の持つ水源涵養、災害の防止、環境の保全などの多面的機能の重要性を認識して、荒廃森林の整備促進に取り組んでこられたようですが、現在の森林の状況とこれまでの取り組み、木材の利用状況についてお尋ねいたします。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて質問させていただきます。

○教育長) 学習塾と学校教育についての御質問にお答えをいたします。

学習塾に通っている児童生徒の割合につきましては、平成25年4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果によりますと、福岡市立の小学校6年生で47.8%、中学校3年生で62.2%が学習塾に通っており

ます。学習塾に通う理由につきましては、福岡市独自の調査は行っておりませんが、平成 20 年度に文部科学省によって行われた、子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告によりますと、小学生は「子どもが希望するから」が 36.8%で最も割合が多くなっており、次いで「家庭では勉強を見てやれないから」が 24.3%、「1 人では勉強しないから」が 21.2%でございます。中学生では、「子どもが希望するから」と「1 人では勉強しないから」がともに 33.7%と多く、「学校の授業だけでは受験勉強が十分できないから」は、中学校 2 年生で 22.9%、中学校 3 年生で 33.9%でございます。以上でございます。

○市民局長 大相撲九州場所についての御質問にお答えいたします。

九州場所は、国内の 4 都市のみで開催される本場所の一つであり、議員がおっしゃいますとおり、国技である大相撲の伝統文化の継承や青少年の健全育成、市民のスポーツ振興に大いに寄与するとともに、長年にわたって市民の皆様に愛される冬の風物詩であり、福岡市にとって極めて大切なものであると考えております。以上でございます。

○経済観光文化局長 大相撲九州場所についてでございますが、我が国の伝統的な国技であります大相撲の本場所を九州で唯一楽しむこと

ができる催しであり、九州一円から多くの観客を集める重要なイベントとなっております。大相撲九州場所は、コンベンションゾーンにございます福岡国際センターにとりまして、開館以来、毎年開催されている最大の催しとなっております、福岡市にとりましては、外国から観光客の誘致を含めて、なくてはならない重要な観光資源であるとともに、MICE都市としての知名度の向上にも寄与していただいているものと考えております。以上でございます。

○農林水産局長 森林資源活用サイクルの確立についてお答えいたします。

福岡市の森林の状況につきましては、市域面積の3分の1の1万1,054ヘクタールを占めており、国有林を除く森林、約8,500ヘクタールのうち、約5,400ヘクタールが杉やヒノキなどの人工林となっております。また、その約7割が41年生以上で木材として利用可能な時期に来ておりまして、木材利用期を迎えた杉、ヒノキの資源量は約166万立方メートルで、年間の成長量は約3万5,000立方メートルとなっております。

次に、本市におけるこれまでの取り組みとしましては、戦後、高度経済成長期に伐採され、荒廃した森林を回復させるため、昭和52年か

ら、山の所有者と市とで契約を結び、市が森林を管理し、木材の売却益を分け合う分収林事業により、現在、1,070 ヘクタールを保育管理いたしております。さらに、平成 20 年度からは、県の森林環境税を活用した荒廃森林再生事業により、市内の荒廃森林 1,993 ヘクタールの間伐に取り組み、平成 25 年度末現在で約 898 ヘクタール、約 45%を実施いたしております。また、林道につきましては、平成 25 年度末現在、全長約 103 キロメートルで、林道整備率は 1 ヘクタール当たり 12.2 メートルとなっております。

次に、木材の利用状況についてでございますが、現在、間伐材については、そのほとんどが森林内に残されており、その量は毎年 2 万立方メートルに及んでおります。林業生産額につきましては、木材価格の低迷等から平成 24 年度で約 4,800 万円となっております。また、福岡市の公共事業等における木材の使用量は、平成 25 年度で約 500 立方メートルで、うち地域産材または県産材の使用量は 36 立方メートルとなっております。なお、木質バイオマスのエネルギー等への利用量につきましては、本年度調査する予定でございます。以上でございます。

○2 問目に移ります。まず、学習塾と学校教育についてです。



私自身、塾には塾それぞれの目的や経営方針があり、学校教育とはまた違った面も多くあると思っています。しかし、そのほとんどが受験を意識した、知識偏重の受験勉強が行われていると思われます。このことは、いい高校に入って、いい大学に入って、いいところに就職するという社会的風潮が続く限り、なくならないと思っています。そのため、いい塾に通わせたいと考えている保護者の中には、遠くてもバス、電車や自家用車を使って通わせている方もいらっしゃいます。いい学校、いい塾に通わせたいために、同じ市内であっても、その近くにわざわざ引っ越しをされる保護者もおられるとのこと。そのことで児童数が減少している小学校もあると耳にします。宮崎県にある日南市では、平成 25 年度から市内の高校 1 年生と 2 年生を、福岡市内の予備校に派遣する事業を始めたそうです。派遣時期は 12 月で、初回は 29 名を五、六日間派遣させています。目的は、地域に予備校や塾が少ないことから、受験経験をさせるためとのこと。自治体によっては、ほかにも武雄市などで塾を活用する動きが既に始まっているようです。このような状況を見てみますと、現在では塾の必要性について否定できないところまで来ていると感じます。しかし、学力は学校教育の中でしっかりと身につけることが一番ではないでしょうか。そのためには、学校が子どもたちの状況をしっかりと把握することが

大切だと思いますが、実際に学校では、子どもたちの学力の実態をどのように把握しているのか、お尋ねいたします。

また、市内の学校において、学力の向上のために学力パワーアップ総合推進事業を行っていると聞きましたが、学力パワーアップ総合推進事業とは、具体的にどのようなことを行っているのか、お尋ねいたします。

次に、大相撲九州場所についてです。

お答えのように、福岡で大相撲が開催されることは、文化的にも経済的にも重要な役割を担っていると思います。私が通っていた中学校にも当時は土俵があって、年に1回、校内の相撲大会があり、私もまわしを締めて出場した覚えがあります。当時は、大鵬、柏戸の両横綱など人気力士が多く、野球に負けなくらいの高いテレビの視聴率でした。至るところで、子ども同士または親子で相撲をとって遊んでいる情景を目にしました。しかし、現在では、西区の飯盛神社で幼稚園児や小学校の低学年を対象とした相撲大会が年1回祭りのときに開かれるだけで、子どもたちが相撲をとって遊んでいる姿を見ることもありません。大相撲は、八百長や体罰問題などスキャンダルが続いたことや、日本人のスター力士がいないことなどから、相撲人気は陰りを見せ、最盛期にはプレミアがついて、なかなか手に入れることができ

なかった棧敷席も空席が目立つようになりました。もっと子どもたちにも大相撲に興味を持ってもらい、ファン層を拡大していく必要があると考えます。市としては、現在、どのような取り組みをされているのか、お尋ねいたします。

次に、森林資源活用サイクルの確立についてです。

林業の活性化や森林の保全については、福岡市だけではなく、全国各地地方行政においていろいろな試みがなされているようです。例に挙げますと、神戸市では、市民の暮らしと六甲山との新しい関係を再構築しようと、六甲山の「恵み」を「育てる」・「活かす」・「楽しむ」ための仕組みづくりとして六甲森林整備戦略が平成 24 年度に策定されました。歴史や自然条件、社会的条件など六甲山の現状を把握した上で、森林の有する多面的な機能が十分に発揮できるよう、目的に応じた適正な森林管理を進めていくとともに、持続的な森林整備を推進するための組織体制や費用負担のあり方、人材育成などの仕組みづくりを推進していこうというものです。2014 年の新書大賞第 1 位の里山資本主義の中で、著者藻谷浩介氏は岡山県真庭市を、日本で最も最先端のエネルギー革命が進んでいる都市として紹介しています。面積は福岡市の 3 倍近くありますが、その面積の 8 割を山林が占める人口わずか 5 万人の山の中の都市です。ここでは木材加工所から出る廃材などを利

用して、木質バイオマス事業を行っています。真庭市には、バイオマス政策課があって、民間の木質バイオマス発電や、木くずでつくられたペレットを燃料とするボイラーやストーブの普及を支援しているそうです。その結果、市のエネルギーの11%を賄えるまでになったそうです。また、この木質バイオマスを観光にもつないでいるとのことですので。福岡市においても、平成25年に木材の利用の促進に関する方針を策定され、本年度は環境局と連携して木質バイオマスの活用など新たな取り組みが始まったとお聞きしていますが、福岡市における森林整備計画についてお尋ねいたします。

以上で2問目を終わらせていただきます。

○教育長 学習塾と学校教育についてのお尋ねでございますが、学校における学力の把握につきましては、全国学力・学習状況調査や福岡市独自の学習定着度調査などをもとに、習得が不十分な領域や单元など、児童生徒の学力の状況を把握し、確かな学力の向上を目指し、指導の改善に取り組んでおります。学力パワーアップ総合推進事業につきましては、全国学力・学習状況調査や学習定着度調査の結果などをもとに、各学校が課題を明確にして、課題解決に向けた学力向上推進プランを作成し、その取り組みを点検、評価しながら改善を図り、学

力向上を推進する事業でございます。具体的な取り組みといたしましては、課題別や習熟度別によって、学級を分割して実施する少人数指導や放課後の補充学習などを行っております。また、児童生徒の学習状況を踏まえまして、補充的な学習プリントを作成するなど、家庭学習の充実に努めております。以上でございます。

○市民局長 大相撲九州場所に対する取り組みについてのお尋ねにお答えいたします。

福岡市におきましては、九州場所の重要性を踏まえ、観客数の増加やファン層の拡大に向けて、さまざまな取り組みを進めているところでございます。具体的には、天神、博多地区にある大型ビジョンや本庁舎1階のデジタルサイネージにおけるCM放映、会場であります福岡国際センターにつながる大博通りなどにおけるバナーや、地下鉄駅構内などにおけるポスターの掲示、市庁舎周辺でののぼり旗の設置など、関係局と連携しながらPRにも力を入れております。

また、日本相撲協会に御協力をいただきながら、市内の小学校に現役の力士が訪問し、特別授業をしていただく小学生相撲教室や、市内の小中学校の児童生徒を九州場所に招待する観戦招待事業を実施するなど、子どもたちが相撲に接し興味を持ってもらえるよう機会を提供

するなど、取り組みを進めているところでございます。以上でございます。

○農林水産局長 森林資源活用サイクルの確立についてお答えいたします。

福岡市におきましては、森林法に基づく福岡市森林整備計画を平成22年度に策定しております。内容につきましては、上位計画であります福岡県が策定する地域森林計画との整合性を図りながら、伐採や造林、保育基準などの森林整備の方法、森林の公益的機能ごとの大まかなゾーニング、整備についての考え方などを記載いたしております。また、平成26年度、環境局と連携した木質バイオマス活用に関する基礎調査の中で、バイオマスなどの森林資源の状況把握、新たな活用方策の検討に着手したところであります。現在、国においては、森林の有する多面的機能の持続的発揮、林業、木材産業の地域資源創造型産業への再生、木材利用、エネルギー利用拡大による低炭素社会への貢献の理念のもと、森林、林業の再生に向けた施策の転換を図っております。このことから、福岡市におきましても、現在の森林、林業の状況を精査し、市の独自性を持った計画に改定していく時期に来ているというふうに考えております。以上でございます。

○ 3問目の質問に入らせていただきます。まず、学習塾と学校教育について。

小中学校において、学力向上に向けた取り組みが行われていることはわかりました。今後も、子どもたちの実態を把握し、それぞれの学校において、しっかりと学力をつけていってほしいと思います。学校の教育が十分であれば、塾に通わせる必要はないというのは、今となってはもう理想になってきているようです。学校の役割と塾の役割を見詰め直し、それぞれが責任を持って子どもたちを教育していくことが大切になると思います。学習塾には学力向上など、当然いいところがある反面、リスクも伴うと思います。塾に通うことで生活の時間が割かれ、勉強以外のさまざまな体験ができなくなることや、家族との団らんの時間もなく、食事も夜遅く1人でとることも少なくないのではないかと思います。また、塾などの教育費用が家計を圧迫しているために、家庭における子どもの数が理想とする子どもの数を下回る結果、つまり少子化につながっていると、出生動向基本調査結果からもうかがえます。これまで学習塾に対しての私の思いを述べてきましたが、こんな報告があります。毎年実施されている全国学力・学習状況調査では、毎回学力の上位を占めている秋田県の子どもたちの70%が

塾に通っていないとの調査結果です。正答率の高いその背景には、さまざまな要因があると思いますが、やはり教育は、学校の教育に期待することが大きくなってきます。教育基本法では、教育の目的は、人格の完成を目指すところにあり、学力だけではなく、さまざまな体験活動を重視し、これからの社会を生き抜く力を育成していくことが大切と書かれています。学校では、さまざまな子どもたちが一緒に学習しています。勉強が得意な子や苦手な子、運動が得意な子や苦手な子など、一人一人の実態に合わせて全ての子どもたちの学力を高めることが求められています。それとともに、心の教育の推進や、健やかな体の育成、人とかかわり合う力の育成も重要だと考えます。今、もう一度、学校しかできないことをしっかり見据え、それぞれの学校が教育活動に責任を持ち、福岡市全体で、より質の高い教育を構築していただきたいと考えています。そこで、本市における学校教育の推進、学力の向上のための取り組み等、教育長の所見と決意をお伺いたします。

次に、大相撲九州場所についてです。

本市としても、大相撲のファンの獲得に取り組んでおられることはわかりました。それが功を奏したのでしょうか、最近の九州場所では、一時期に比べ、観客数が若干持ち直していると聞いております。ただ、



テレビで観戦していると、やはりほかの場所よりも空席が目立っており、このままの状態では九州場所の開催がなくなるのではないかと、相撲ファンから不安の声が聞かれます。ホームグラウンドを平和台野球場にしていたライオンズ球団は、観客数が激減したことによって、誕生の地、福岡から所沢に本拠地を移さざるを得ませんでした。福岡から球団がなくなって初めて市民は、球団の存在の大切さを感じました。大相撲も市民の気持ちが離れてしまうと、九州場所も取りやめになるおそれもあります。本場所を福岡市に誘致された先人の御労苦は並大抵のものではなかったと想像されます。その先人の思いと尽力を無にしないためにも、大相撲のファン層を拡大していくことが大切だと思います。ことし11月に初めて開催される福岡マラソンは、全国からの申し込み者が殺到し、大変な盛り上がりを見せています。同じく11月開催の九州場所まで、わずか5カ月足らずです。大いに盛り上がり、満員御礼の垂れ幕が一日でも多く下がることを願っています。本市も九州場所に対して、より一層の支援をしていただけるものと期待しておりますが、御所見をお伺いいたします。

最後に、森林資源活用サイクルの確立についてお尋ねします。

日本では昭和30年代から昭和40年代にかけての急激な経済成長に伴って、莫大な木材が必要となり、東南アジアや南アメリカから大量

の木材を輸入しました。そのことで現地の森林を次々に伐採したことが自然破壊として国際問題にもなりました。過去のこのような経験から、今でも山の木を切ることは森林を破壊し、自然破壊につながると連想する人が多いようです。自然に一度人間が手を入れると、それからずっと人間がかかわっていかなければ、自然と人間との共生は難しいと言われています。つまり、放置していることが最良の自然環境ではないということです。木を切ることは悪いことではなく、乱伐することや放置することが問題であって、計画的に木を切り、収穫し、植林して育てるというサイクルの確立が重要であり、森林を健全な状態で維持することにつながると考えています。それにはまず、木材の利用促進が重要な課題だと考えます。

ヨーロッパでは、板を重ね合わせた集成材の開発が進み、鉄筋コンクリートの建物より丈夫で快適な建物として、これを使用した木造高層ビルが各国の都市で建ち並び始めたとのことです。

日本では建築基準法での制約が多いため、大型の木造建築は余り見かけることはありませんが、平成 22 年に施行された、公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律に基づき、平成 24 年度には、国が整備した低層の公共建築物 462 棟のうち、42 棟を木造で整備し、258 棟で内装等を木質化したそうです。

市町村においても、公共施設に木材を利用した建物が見られるようになりました。熊本県の上天草市は、新庁舎を木造3階建てで建設し、同庁舎の建設に必要な木材のほぼ全量を地元の天草で賄ったとのことです。また、昨年視察しました川崎市においては、木造2階建ての留守家庭子ども会の建物が子どもたちの健康と地場業者の育成を兼ねて、小学校の敷地内にありました。

それから、きょうの朝日新聞ですが、その中に、福岡県がガードレールとして、早良区に今、基幹林道が建設中ですが、そこに利用したい、利用しているという記事が載っていました。福岡県としても、地場産の木を利用しようということで、年間的に計画を立てて、交番とか、そして学校の内装材に大いに使っていこうという、そういったふうな計画が行われています。

そういったことで福岡市においても、各部局におきましても、木材の利用促進について真剣に取り組んでいただければと思っております。市民生活の安全、安心を支え、都市と共生する森林として、しっかりと森林サイクルをつくり出す必要があります。本市独自の森林施策の方向性を確立する必要があると思います。また、森林を新たな資源として、現在、山林に放置されている間伐材の活用を初め、木材の新たな活用を見出し、森林を新たな資源として活用していく取り組みが重

要と思われます。

私たちの先祖は、子や孫子の代のことを思いながら、百年の計で山林を育て守って引き継いできました。その精神が将来に引き継がれる林業行政が望まれるところです。本市の3分の1を占める森林を新たな資源として再認識し、その活用を積極的に推進することは、本市にとって文字どおり、宝の山にもなるのではないのでしょうか。本市の今後の取り組みと、その方向性をお尋ねして、私の質問を終わります。

○教育長 学習塾と学校教育についてのお尋ねでございますが、学校教育におきましては、知・徳・体のバランスのとれた教育を推進し、生きる力を育成していくことが極めて重要であると認識をしております。このため、福岡市における学力向上のための学校教育の推進につきましては、全国学力・学習状況調査や学習定着度調査の結果を分析し、課題解決に向けた指導資料を作成したり、学力パワーアップ総合推進事業における推進拠点校のすぐれた取り組みを研修会や授業公開などを通して、全ての学校で共有してまいりました。

さらに、学力の向上を図るため、これらの取り組みに加えて、平成26年度からはそれぞれの学校の実態に応じた取り組みを充実させるため、プラン作成や中間報告などの点検、評価を教育委員会と学校と

が一体となってい、学力が向上していくよう取り組み方法を改善したところでございます。

今後も基礎的、基本的な知識や技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを目指し、より一層の学力の向上に努めてまいります。以上でございます。

○市民局長 大相撲九州場所に対する今後の支援についてのお尋ねにお答えいたします。

福岡市におきましては、福岡国際センターへの来場者だけではなく、テレビの前でもたくさんの市民の皆様が楽しみにされている九州場所が引き続き開催されるためには、ファン層の拡大に向けて支援していくことが非常に大切なことだと考えております。現在、九州場所の観客数の増加に向け、升席を広めにするなどの観覧しやすい環境づくりやPR活動などに取り組まれている日本相撲協会とも歩調を合わせながら、伝統文化の継承やスポーツの振興、福岡市の知名度向上のためにも、今後とも支援を行ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○農林水産局長 森林資源活用サイクルの確立についてお答えいたします。

福岡市におきましては、平成 26 年度から地域産材利用促進に向けた取り組みを始めたところであり、引き続き公共建築物の木造化、木質化を促進するとともに、平成 27 年度以降、CLT、いわゆる直交集成板など、さまざまな集成材や間伐材を使用した紙製品、さらには木質バイオマスのエネルギー資源への活用も含めた新たな出口対策に取り組むなど、木材の利用促進を図ってまいります。また、平成 27 年度からの福岡市森林整備計画策定に向け、森林資源、森林の荒廃状況、林道の整備状況など、現在分散している情報のデータ整理と図式化を行い、森林情報の見える化に取り組んでおります。さらには、木質バイオマス活用に関する基礎調査の中で、森林資源の状況について調査を行うことといたしております。

次に、本市独自の森林施策についてでございますが、大原議員御指摘のとおり、森林はさまざまな多面的機能を有しており、その貨幣評価は、我が国の森林全体で年間約 70 兆円と試算されております。これを福岡市の森林面積に置きかえますと、年間約 310 億円になります。また、杉やヒノキの人工林については、森林資源活用サイクルを循環させることで、自然環境の保全などの多面的機能が発揮されるもので

もあります。この貴重な財産である福岡市の森林を次の世代に引き継ぐためには、木材の生産の場として利用する森林、水源涵養や山地災害の防止の機能を担う森林などのゾーニングを初め、森林の現況、自然条件、地域のニーズ等を踏まえた数十年を単位とした長期的視点からの計画が必要だと考えております。今後、福岡市森林整備計画のもとになる森林の将来像を描くため、基礎調査や関係者によります検討を行ってまいりたいと考えております。以上でございます。